

不登校対応加配教員を活用した本校の取組について

【台東区立 A 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、ひとり親家庭であり、親子の関わり方に課題を抱えている。また、対象生徒本人の不安症なども重なり、小学校の頃から、登校渋りの傾向であった。

中学校1年生の年度始めは、分散登校だったこともあり、ほぼ欠席することなく登校できていたが、夏季休業日以降は、登校渋りによる遅刻、欠席を繰り返し、不登校状態になった。2年生進級後は、GW までは登校できていたものの、連休明けから再び登校を渋るようになり、不登校となった。

具体的な取組

○魅力ある学校づくりの推進

毎学期、全生徒対象にアンケートを実施し、生徒の実態に応じた支援を行う。

また、生徒が学習に対して、達成感を感じることができるよう、基礎的基本的な内容をテスト形式で行い、合格できるよう、支援していく。

○不登校対策委員会の設置及び支援会議の実施

生活指導部内に不登校対策委員会を設置し、情報の共有と短期的・長期的な指導方針について確認を行った。また、管理職、学級担任、養護教諭、特別支援コーディネーター等が出席する支援会議を週1回実施した。

○生徒の居場所づくり

教室に入ることに抵抗感をもっている生徒が、学校で安心して過ごすことができるよう別室を用意した。



○SCなどの関係機関等との連携

心理的な不安を抱えている不登校の生徒やその保護者について、教職員だけでなくSCやSSWなどと情報を共有するとともに、面談などを積極的に勧めた。

成果

不登校の生徒は、始めは全く登校できない状況であったが、「生活指導相談学級へ通う」、「学校に配布物を取りに来る」、「別室登校をする」など、学校等と繋がりを継続するとともに、段階をあげていくことで、登校日数が増えていった。

課題

連絡が取りづらかったり、関係機関とつながることに抵抗感をもっていたりする家庭への対応に課題がある。